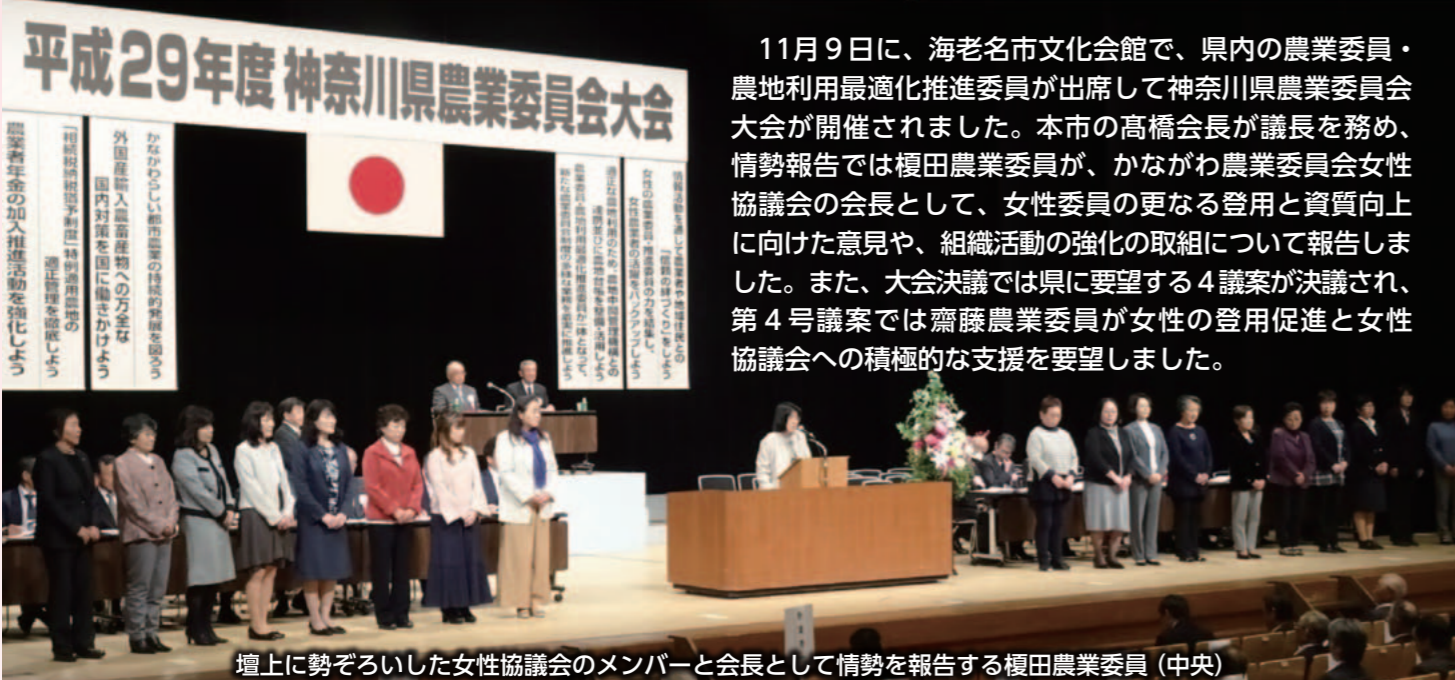




《編集・発行》

相模原市農業委員会
相模原市中央区中央2丁目11番15号
Tel 042-769-8292 (直通)

農業のうごき



11月9日に、海老名市文化会館で、県内の農業委員・農地利用最適化推進委員が出席して神奈川県農業委員会大会が開催されました。本市の高橋会長が議長を務め、情勢報告では榎田農業委員が、かながわ農業委員会女性協議会の会長として、女性委員の更なる登用と資質向上に向けた意見や、組織活動の強化の取組について報告しました。また、大会決議では県に要望する4議案が決議され、第4号議案では齋藤農業委員が女性の登用促進と女性協議会への積極的な支援を要望しました。

壇上に勢ぞろいした女性協議会のメンバーと会長として情勢を報告する榎田農業委員(中央)



決議の実現に向けた取組の強化と申し合わせ事項の着実な実践を宣言し、がんばろう三唱で大会は締めくくられました。

議長として議事を進行する高橋会長(右)

女性協議会は県内組織全体で支援すべきであると強く要望する齋藤農業委員

- 第1号議案 本県農業の振興に関わる課題と新たな農業委員会制度の着実な推進に関する要望
- 第2号議案 農地の保全と有効利用対策に関する要望
- 第3号議案 担い手・経営対策に関する要望
- 第4号議案 農業委員会活動の強化に関する申し合わせ

平成29年度神奈川県農業委員会大会	1
津久井郡農協及び相模原市農協と農業委員会との意見交換会を開催しました！	2
農業委員会が先進市を視察、農業まつり	3
がんばる若手農家さんの紹介No.6(大村裕輔さん)、今旬♪レシピNo.5(ツナときのご入りコロッケ)	4

がんばる若手農家さんの紹介 No.6 ～お客さんの要望に応えられる野菜作りを目指して～



大村 裕輔 さん

栽培品目

夏：きゅうり 等
冬：ブロッコリー、にんじん
きゃべつ 等

出荷先

ヨークマート(富士見店、田名店)
いなげや(相模原下九沢店)

Q. 農業を始めようと思ったきっかけはなんですか。

A. 元々はアニメ制作の仕事をしていましたが、その中で「地域に根ざした仕事をしたい!」、「自分の作ったものをそのままお客さんへ届けたい!」と思い始めたのがきっかけです。全く別の世界のように思われますが、共通するものもあり、農業なら自分が思っているものが届けられると考えました。

また、給料は安くても、食べ物があるのが一番いいなと思ったのと、野菜を食べていければ生きていけると考えたのも一つです。

就農に向けて、第一次産業ネットから農業生産法人に入り、農家として運営していく知識を学び、緑区の大島を中心に就農しました。

Q. 農業をやる上での嬉しさやこだわっていることはなんですか。

A. 日々の農作業の中で、自分のステップアップが実感できたときや、研修先で学んだ知識を元に、試行錯誤しながら、天候対策などを自分で考え、最初から最後まで成し遂げることができたときに嬉しさを感じます。

また、こだわりという目指しているものは、様々なお客様のニーズにNO!と断ることができるものを栽培することです。自分のこだわりではなく、他とは違う見た目や減農薬の作物などのお客様のこだわりはどう対応できるか、個々のお店の売り場に必要とされるものは何かを考えながら生産しています。

農法でも、相模原市の米ぬかと鶏ふん、アミノ酸の液体酵素などの肥料を用いて、野菜本来の健康を第一に考え栽培しています。

Q. 今後の目標や抱負をお願いします。

A. 経営規模を拡大し、自立できるよう頑張りたいです。また、将来的には、お客様からの要望に全て対応できる様々な作物を栽培できるようになりたいです。

今旬♪レシピ No.5

寒い季節になりましたが、定番メニューのコロッケを、地元の素材とひと工夫で、あつあつで召し上がってください♪メインメニューにもどうぞ!

本日の一品

ツナときのご入りコロッケ



完成イメージ

作り方

- ①玉ねぎをみじん切り、エリンギは荒めみじん切りにする。
- ②じゃがいもは皮をむき3cm角に切って鍋に入れ、じゃがいもが浸る程度の水を入れゆでる。竹串がスッと入る程度までゆでたらゆで水を捨て、水分を飛ばしてからボールに入れ、熱いうちにつぶす。(つぶし加減はお好みで)
- ③フライパンにサラダ油を入れ、①の玉ねぎを中火で炒める。玉ねぎがしんなりし始めたら、エリンギを入れて炒め、玉ねぎがあめ色になったら皿に移して冷ます。
- ④つぶしたじゃがいもに、③と油を切ったツナとコショウを入れ、よく混ぜる。
- ⑤お好みの形に整え小麦粉・溶き卵・パン粉の順に衣をつける。
- ⑥⑤を180℃の油で揚げ、きつね色になったら出来上がり!

材 料 (3人分・6個)

じゃがいも.....4個	卵.....1個
玉ねぎ.....半分	パン粉.....適量
エリンギ.....2個	小麦粉.....適量
ツナ.....1缶	揚げ油.....適量
サラダ油(炒め用)	付け合わせ
.....小さじ1	ミニトマト・レタス
コショウ.....適量	等をお好みで

このコーナーでは、地元の食材を使った旬のレシピを募集しています。ぜひ皆様のご家庭で味わえる旬の味をお寄せください! (郵送・FAX等)

応募先: 〒252-5277 相模原市中央区中央 2-11-15
相模原市農業委員会事務局
(TEL042-769-8292 / FAX042-754-1064)

※必ず記載【料理名、材料、作り方、完成例(写真かイラスト)、住所、氏名、電話番号】



農業委員会が先進市を視察

10月25日、農業委員と農地利用最適化推進委員の31名が農業についての見聞を広め、今後の活動に活かすため山梨県内の施設等を視察しました。

甲府市にある「風土記の丘農産物直売所」では、農業者自らが運営に携わる仕組みの説明を受け、販路拡大への意識と意欲から、委員の活発な意見や質問があり会場は熱気に包まれました。

また、企業参入による耕作放棄地の有効活用を実践している北杜市では、市役所農政課の職員から具体的な活動事例を伺った後、「明野九州屋ファーム」を訪れ、販路や経営規模拡大のための取組や北杜市に参入したきっかけ等について、現地で説明を受けました。



11月12日、淵野辺公園中央広場で「第53回農業まつり」が開催され、晴天に恵まれる中、たくさんの方々が、地場農産物を使った料理やイベントを楽しみました。農業委員会では活動紹介のブースを設置し、農業委員や農地利用最適化推進委員が、来場者への説明や質問に答えながら啓発を図りました。

また、ステージでは農畜産物共進会の表彰も行われました。

【第53回農業まつり 農畜産物共進会 受賞者一覧】

区分	共進会対象部門	受賞者名(敬称略)	区分	共進会対象部門	受賞者名(敬称略)
立毛	施設トマトの部	小林 康 史	生産物	シクラメンの部	八 木 雄 一 郎
	露地ナスの部	小林 康 史		パンジーの部	石 原 敏 弘
	梨の部	三 澤 勝 重	坪掘り	やまといもの部	宮 崎 則 正
	ぶどうの部	小野澤 明 英		やまといもの部	佐 藤 隆 一
生産物	施設トマトの部	小 俣 武 士	畜産物	甘藷の部	小 俣 光 明
	施設キュウリの部	小 磯 直 吉		乳牛の部(育成牛)	神奈川県立相原高等学校
	梨の部	三 澤 勝 重		乳牛の部(経産牛)	吉 川 一 郎
	ぶどうの部	小野澤 明 英		種豚の部	有限会社相模原畜産
	柿の部	柿 澤 光 一		鶏卵の部	有限会社小川和男養鶏場



更なる連携を図るため

津久井郡農協及び相模原市農協と



農業委員会との意見交換会を開催しました！

津久井郡農業協同組合との意見交換会は、11月13日に郡農協本所で開催し、郡農協から加藤代表理事組合長をはじめ役員5名、農業委員会からは津久井地区を中心とした農業委員10名と農地利用最適化推進委員8名が参加しました。また、相模原市農業協同組合との意見交換会は、11月14日にJA相模原市ベジタベーなで開催し、市農協から中里代表理事組合長をはじめ役員6名、農業委員会からは本庁地区の農業委員10名と農地利用最適化推進委員8名が参加しました。

農業委員会では、昨年の農業委員会法の改正により必須業務となった「農地利用の最適化の推進」に現在取組んでおり、その取組を進める上で必要な相模原市の施策の改善を、本年8月に「農地等の利用の最適化の推進に関する意見及び農業施策に関する要望」として市長に提出しました。(農業のうごき「第30号」)

この中で、農業者にとって大変重要な課題である販路の拡大等について、必要となる農協の支援を市から両農協へ働きかけるよう要望したことから、農協と農業委員会が直接意見交換を行うことにより、双方の更なる連携を図ることを目的として、今回初めてこの意見交換会を開催しました。

意見交換会では、「農地利用の最適化の推進」や「JA自己改革」など、農業委員会や農協が進めている取組の状況や課題を議題として、それぞれの立場からの様々な意見や質問が交わされました。

具体的な項目として、農業委員会から「遊休農地の発生防止・解消」「担い手への農地の集積・集約化」「新規参入の促進」「地場農産物の販路拡大」「生産緑地制度」について現在の取組状況や課題の説明を行ったほか、農協からは「JA自己改革の状況」についての説明がありました。

主な意見としては、「遊休農地の発生防止・解消」について、遊休農地の発生のおおきな原因となっている有害鳥獣による被害への対策を進めるにあたり、行政だけに頼るのではなく、農業委員会と農協との連携による鳥獣被害対策が不可欠であることや、高齢化や担い手不足が深刻な地域において農地利用集積円滑化事業や農地中間管理事業等を活用して遊休農地の発生防止・解消や担い手への農地の集積集約化を進めるにあたり、農業委員会と農協の情報共有を図ることが必要であることなどが出されました。また、今回の意見交換会の開催のきっかけともなった農産物の販路拡大については、農業委員会から農協に対して、新たな直売所の設置や両農協双方への出荷を可能にするための検討、農業者相互の連携を図る場の提供などを要望しました。

農協からは、自己改革として進めている「営農指導機能の強化」「販売力の強化」「生産購買事業の強化・再構築」等について説明があり、その実践状況について農業委員会から様々な質問がありました。

全体を通して活発な意見交換や質疑があり、今後も農協と農業委員会の連携を図っていくことに繋がりました。

